

# Firestore 虎の巻



# Firebase とは？

Firebase は Google が提供するアプリビジネス向けツールです。

利用する人の担当領域や目的によって活用範囲が異なるため、「開発ツール」もしくは「分析ツール」と言われることが多いのは事実です。

実は、Firebase は開発から分析までをカバーする、**アプリ開発の総合支援ツール**です。



アプリ開発ツール  
ですよね？

アプリ分析ツール  
ですよね？



Firebase は アプリ開発の  
総合支援ツール

# Firebase のミッション



Help mobile app teams succeed  
アプリチームの成功を助ける

Firebase はチームを構成する

開発者・マーケティング担当者

どちらもサポートします。

## 開発者にとってのメリット

- モバイルアプリのバックエンド機能の開発が容易になります。
- Google の機械学習テクノロジーを用いた開発が可能です。
- アプリの品質をモニタリングし、改善できます。
- ユーザー行動の分析によって、UI/UX を改善できます。

## マーケティング担当者にとってのメリット

- Google 広告との連携で、マーケティング施策の質と効果が向上します。
- ユーザー行動の分析によって、マーケティング施策全体を最適化できます。
- 広告により、効率的な既存ユーザーの活性化が可能です。

# Firestore 3つのポイント

## ポイント 1

### アプリの開発・改善から ビジネスの成長まで 幅広い領域をサポートします

Firestore は アプリビジネスの開発からスケールまで  
幅広くサポートします。

ビジネスのステージや、チームの担当者それぞれに  
最適なソリューションを提供しています。





# Firebase 3つのポイント

## ポイント 2

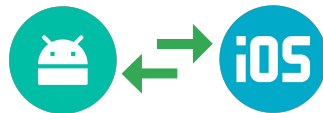
### あらゆる機能が 同一プラットフォーム上で利用可能

アプリビジネスに必要なあらゆる機能が、ひとつのプラットフォームで利用可能なので、機能ごとに SDK を追加したりコンソールを切り替える必要がありません。

実装、運用のコストを最小化できます。



単一の  
SDK



クロス  
プラットフォーム



統合された様々なツールと  
サービス

# Firebase 3つのポイント

## ポイント 3

### 多くの機能を無料で利用できる

様々な機能の多くを無料で利用できます。  
また、目的や必要に応じて複数の有償プランも  
ご用意しています。

Firebase の料金プランについては[こちら](#) >>



開発向け



無料

Auth



Cloud  
Storage



Cloud  
Functions



Hosting



Cloud  
Firestore



Realtime  
Database



改善向け



Crashlytics



Performance  
Monitoring



Test Lab



ビジネス向け



Analytics



Remote  
Config



Predictions



A/B  
Testing



Cloud  
Messaging



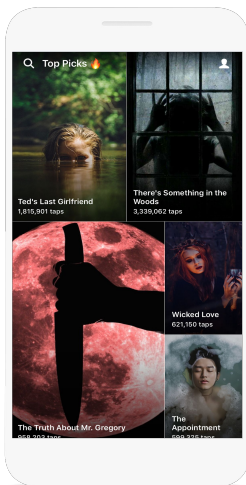
Dynamic  
Links

# Firestore 活用事例

Firestore がアプリの成功をサポートした事例の一部をご紹介します。

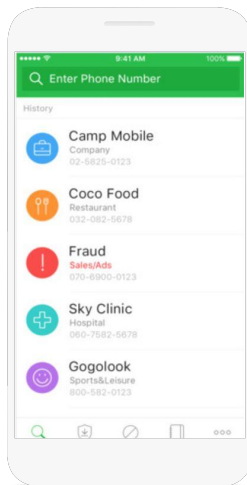
## Tap (Wattpad)

13 個の機能を駆使して  
アプリを 3 週間で開発



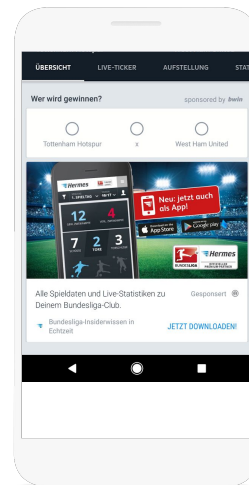
## Whoscall

チュートリアル改善で  
アンインストール率 14%  
継続率 7% 改善



## OneFootball

UI を改善し  
ユーザー毎のセッション数 5%  
記事購読数 6% 改善



# Firebase は世界中の開発者に活用されています



月間アクティブアプリ数

160万



Flipkart



STRAVA



Nintendo



pandora

iHandy



Blue Apron



shopify

StubHub



SHAZAM



The New York Times



cheetahmobile



meitu

@WalmartLabs

box

CONDÉ NAST  
BRITAIN



HALFBRICK



INSTRUCTURE



SWÖRKIT

Doodle

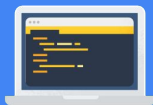


duolingo

# Firestore の機能

Firestore がアプリ開発の総合支援ツールとして、具体的にどのような機能を提供しているか、特徴的な機能をピックアップしてご紹介します。

開発向け



改善向け



ビジネス向け





## 開発向け



## アプリでの機械学習活用を簡単に

Google が開発する最新の機械学習機能を  
アプリ開発に活用できます。

- 1 一般的なモデルをデフォルトで用意
- 2 ローカル、クラウド両方の API を活用
- 3 自作の Tensor Flow Lite モデルも利用可能

ML Kit について詳しくは [こちら](#) >>

### ビジョン



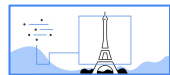
文字認識



バーコード  
スキャン



イメージ  
ラベリング



ランドマーク  
認識



顔認識



### 自然言語処理



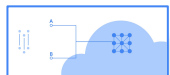
言語判定



スマート  
リプライ



### カスタム



モデル作成



# 改善向け



## Firebase Performance

### 改善ポイントを見つけて解決に活用

アプリの安定性や UI/UX など、改善すべきポイントを素早く把握することができます。

安定性やUI/UX はレビューと相関性がある

42%



評価が星 1 つのレビューでは 42% のユーザーが安定性と不具合について言及

73%



評価が星 5 つのレビューでは 73% のユーザーが速さ、デザイン、使い勝手に言及

Firebase Performance について詳しくは [こちら](#) >>



アプリ内でどのページの読み込みが遅いか、リクエストが失敗する傾向の強いページを表示



応答時間の傾向や分布の分析により、問題の特定や解決に活用可能



## 改善向け



Firestore

### Firestore

## アプリの品質改善をスピーディーに

Crashlytics を活用して大量のクラッシュレポートを  
問題点リストに変換することで、アプリの品質管理が  
容易になり、トラブルシューティングにかかる時間を  
短縮します。

Firestore Crashlytics について詳しくは [こちら](#) >>



Crashlytics を活用し  
アプリの品質を改善した  
フード デリバリー アプリの事例

アプリを高速化



2x 高速



12x 高速



オーダー数 / 日

2.2%



レビューでの評価



“素晴らしいアプリ、速い！”

“とても早くて便利”

“快適すぎて困らない”







# ビジネス向け



## Firestore Remote Config

### A/B テストを簡単に

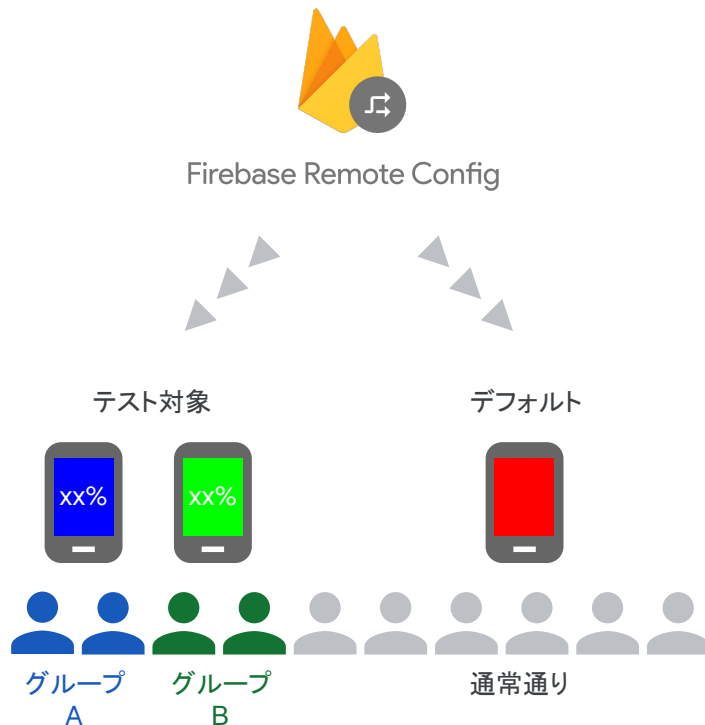
ランダムなユーザーに対して、A/B テストを容易に実施することができます。

対象項目以外の状況が同じ複数グループを作り、KPI への影響をテストしましょう。

※Firebase Remote Config での A/B テストの詳細な設定方法は [46 ページ](#)をご覧ください。

Firebase Remote Config について詳しくは [こちら](#) >>

### スクリーン カラーをテストする場合





# ビジネス向け



## Firebase Predictions

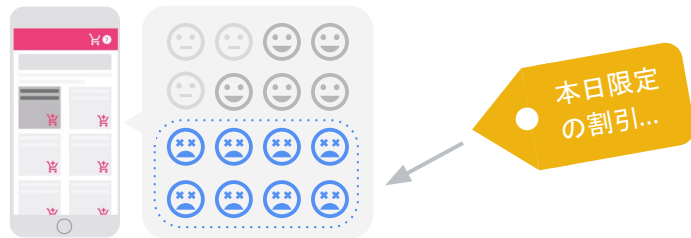
### ユーザーの将来行動を予測

機械学習の知識がなくてもユーザーの行動を自動で予測し、その結果をマーケティング施策に活用できます。

Firebase Predictions について詳しくは[こちら](#) >>

分析結果を元に、未来のユーザー行動を予測できるツールです。

例えば、離脱しそうなユーザーを予測し、そのユーザーにクーポンを配信するなど、ユーザー層に合わせたアプローチが可能になります。



ユーザー行動を予測

離脱しそうなユーザーに  
クーポンを配信

# Firestore の活用

Firestore の使い方がわかる「Firestore活用のために必要な3 ステップ」と、具体的なアクションの方法について詳しくご紹介します。



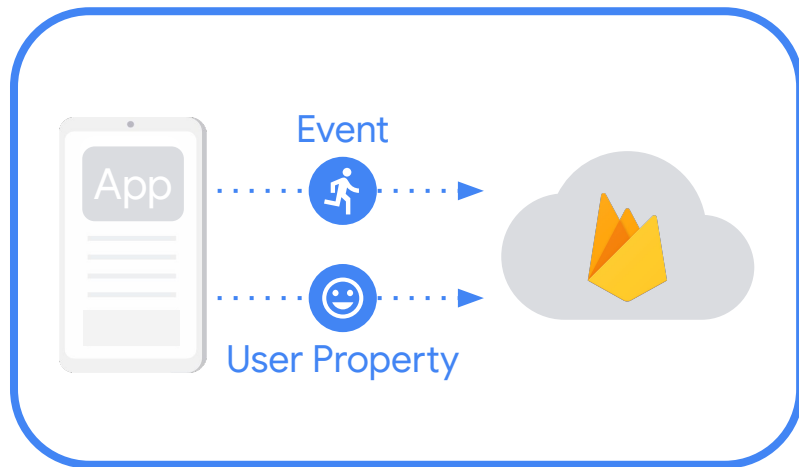


## ステップ ①

# Firestore にデータを送る

アプリ内ユーザーのデータには「ユーザーの行動・イベント」「ユーザーの属性・プロパティ」の 2 種類があります。

「ユーザーの属性・プロパティ」は Google 側である程度自動的に収集できますが、初期の段階で特に重要なのは、データを取得すべき「ユーザーの行動・イベント」の特定です。





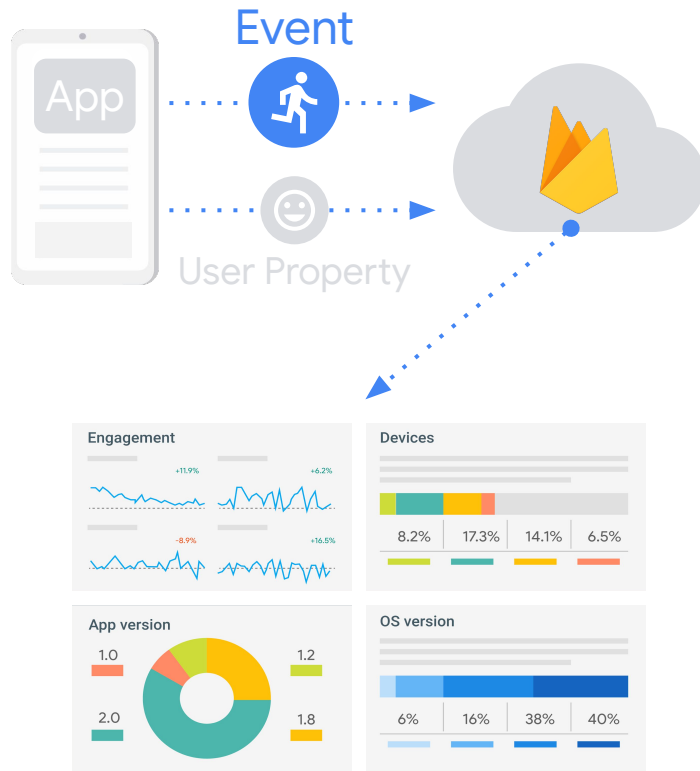
## ① Firebase にデータを送る

# アプリ内イベントのデータを収集する

アプリ内のイベントデータを取得するにあたって、わかりやすい名称の命名や、季節性のあるイベントかどうかなどイベントをカテゴライズして把握、コントロールすることが重要です。

アプリ内で重要なイベントは必ずデータを収集しましょう。また、できるだけ多くのイベントデータを取得することで、ユーザーの行動把握やアプリの改善、マーケティングの最適化に活用することができます。

イベントデータの収集方法について詳しくは[こちら](#)>>





## ① Firebase にデータを送る

# イベントデータの種類

### 自動的に収集されるイベント

自動的に収集されるイベントは、アプリの基本的な操作によって発生します。Firebase SDK を使用していれば、これらのイベントを収集するコードを追加で記述する必要はありません。

自動的に収集されるイベントの一覧は [こちら](#) >>

### 自動的に収集されるイベントの一例

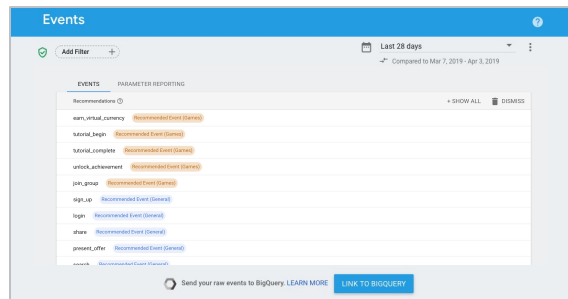
イベント名	発生するタイミング
ad_click	ユーザーが広告をクリックしたとき。
app_remove	アプリのパッケージが Android 搭載端末から削除または「アンインストール」されたとき。
app_update	新しいバージョンに更新されたアプリが再起動したとき。
first_open	ユーザーがアプリをインストールまたは再インストールした後に、初めて起動したとき。
in_app_purchase	iTunes の App Store または Google Play で処理されるアプリ内購入をユーザーが完了したとき。
notification_open	FCM から送信された通知をユーザーが開いたとき。
screen_view	スクリーンの遷移が起こったとき。



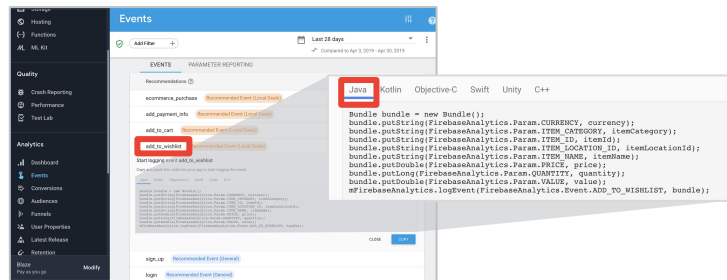
## 推奨イベント(カテゴリごと)

すべてのアプリや特定のカテゴリごとに設定すべきイベントを Firebase が自動的に推奨します。

※推奨イベントの詳しい設定方法は[33 ページ](#)をご覧ください。



Firebase コンソール内で推奨イベント  
が提示されます。



提示されたイベントは、数 Click で  
実装コードをエンジニアに渡すことも可能です。



## ① Firebase にデータを送る

# イベントデータの種類

## カスタム イベント

アプリ特有のイベントのデータを取得しましょう。

イベントとプロパティについては[こちら](#)>>

## データを取得すべきイベントの一例



### ゲームアプリ

- チュートリアル開始
- チュートリアル完了
- レベルアップ
- グループ参加
- Post score
- コンテンツ選択
- 仮想通貨の使用達成
- クリア



### ショッピング アプリ

- 商品を見る
- 商品一覧を見る
- ウィッシュリストに追加
- 検索結果を見る
- カートに追加
- 支払い開始
- 支払情報入力
- 購入





## ステップ ②

# Firestoreで洞察を掴むための 設定を行う

データを集めたら、そこからアクションにつなげるための  
インサイトを得ましょう。条件にあったユーザーリストを  
作成するおすすめの設定をご紹介します。



特定の条件に見合ったユーザー群



## ② Firebase で洞察を掴むための 設定を行う

# オーディエンスビルダーを 活用する

アプリから収集されたユーザー プロパティとイベントを選択して、ユーザーリストを作成することができます。ユーザーリストを作成すると、それ以降、指定された基準を満たすユーザが蓄積されます。ユーザーリストを分析したり、リストに対して特定のメッセージを送るなどのコミュニケーションが可能です。

※オーディエンスビルダーの詳しい設定方法は[35 ページ](#)をご覧ください。

オーディエンスビルダーについて詳しくは[こちら](#) >>

- 過去 30 日のデータをベースとした **ユーザー サマリー**の提示
- 特定のユーザー グループをリストから一時的・完全に**除外が可能**
- **シーケンス**を利用して特定の順序で利用したユーザーを抽出

業界ごとの推奨リストが提案されます

### ゲーム

トッププレイヤー、  
トップスコアラーなど

### 旅行

ウィッシュリスト追加、  
検索者など

### E コマース

カート離脱者、  
商品閲覧者など

### 教育 / 仕事

リードとなるユーザー、  
登録者など

### ファイナンス

複数製品購入者  
検索者など

その他にも様々な  
カテゴリのリストを  
ご用意しています



## ② Firebase で洞察を掴むための 設定を行う

# Firebase Predictions を 活用する

機械学習の知識がなくても自動でユーザーの将来行動を予測し、特定の行動をとりそうなユーザーリストを作成することができます。特定のオーディエンスに対してメッセージを配信したり、A/B テストを実施することが可能です。

### 購入者予測

近い将来アプリ内  
購入や商品購入を  
しそうなユーザー  
を予測



### 離脱者予測

過去7日間は利用  
しているが、近い  
将来利用停止しそうな  
ユーザーを予測



### 特定イベント 予測

利用者側が定義した  
イベントを近い将来完  
了しそうか、しなさそう  
かを予測

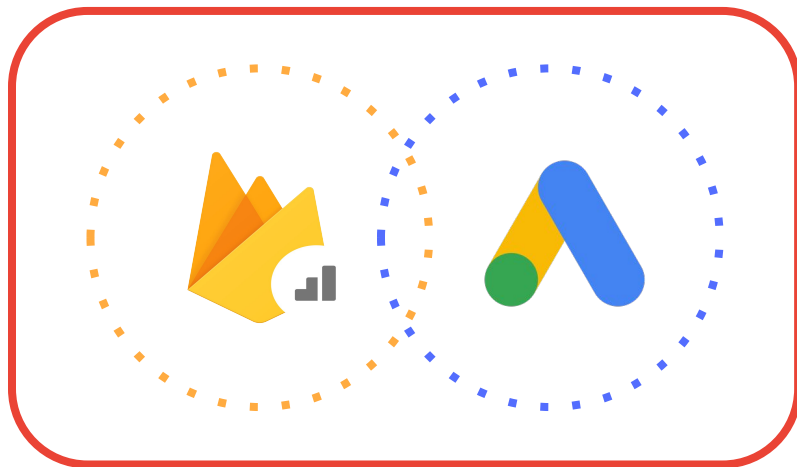




## ステップ ③

### Firestore でアクションをとる

Firestore 向け Google アナリティクスデータを使用して  
Google 広告の効果をより高めることができます。





### ③ Firebase でアクションをとる

## Firestore 向け Google アナリティクス Google 広告に活用

Firestore 向け Google アナリティクスを Google 広告のアプリ キャンペーンに活用することで、より価値のあるユーザーを獲得し、既存ユーザーとのエンゲージメントを深め、運用を簡素化することが可能です。

※Firestore と Google 広告の詳しい連携方法は[55 ページ](#)をご覧ください。





### ③ Firebase でアクションをとる

## 効率的に広告の成果を上げたい

#### 活用機能例①

##### 類似ユーザーの自動生成



トラッキングしたコンバージョンイベントから自動的にユーザーリストを作成し、より多くの類似ユーザーを見つけます。

- 優良なユーザーに類似するユーザーを自動的に見つけることによって、キャンペーンを効果的に実行します。
- 作成されたオーディエンスリストは、常に最新に保たれます。

#### 活用機能例②

##### 自動入札



イベントで自動入札を使用すると、アプリキャンペーンはより速く目標を達成できます。

- コンバージョンやオーディエンスをより理解するためにデータが役立ちます。
- 正確な予測ができるようになります。



### ③ Firebase でアクションをとる

## 目的にあったユーザーを獲得したい

#### 活用機能例③

#### ネガティブ ターゲティング



特定のセグメントのユーザー層をターゲットにしたくない場合に、配信対象から除外する機能です。

- 多数のアプリを提供している企業の場合、異なるアプリを特定のユーザーにプロモーションしないように調整できます。
- アプリをアンインストールした人をターゲットから外すことができます。

#### 活用機能例④

#### 「目標広告費用対効果」に基づく入札



選択したコンバージョン期間で、平均的な目標広告費用対効果を達成可能な、新しいユーザーを獲得できます。



### ③ Firebase でアクションをとる

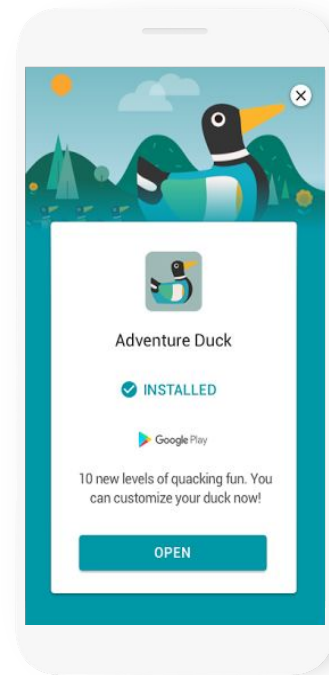
## より効率的にリエンゲージメントをしたい

#### 活用機能例⑤

#### ユーザーリスト マネジメントの簡易化

Firebase 向け Google アナリティクスでユーザーリストをインポートし、管理することで、リストマネージメントを簡易化します。

- Firebase 向け Google アナリティクスは、基準に合うユーザーを自動的に含んだり除外したりします。
- オーディエンス除外のルールに従って適切なオーディエンスを明確にします。(例えば、買い物カゴに商品を入れたが、購入しなかったユーザーなど)
- 適切な長さの有効期限を持つリストが最新であることを確認してください。(例えば、直近30日以内にコンバージョンしたユーザーなど)







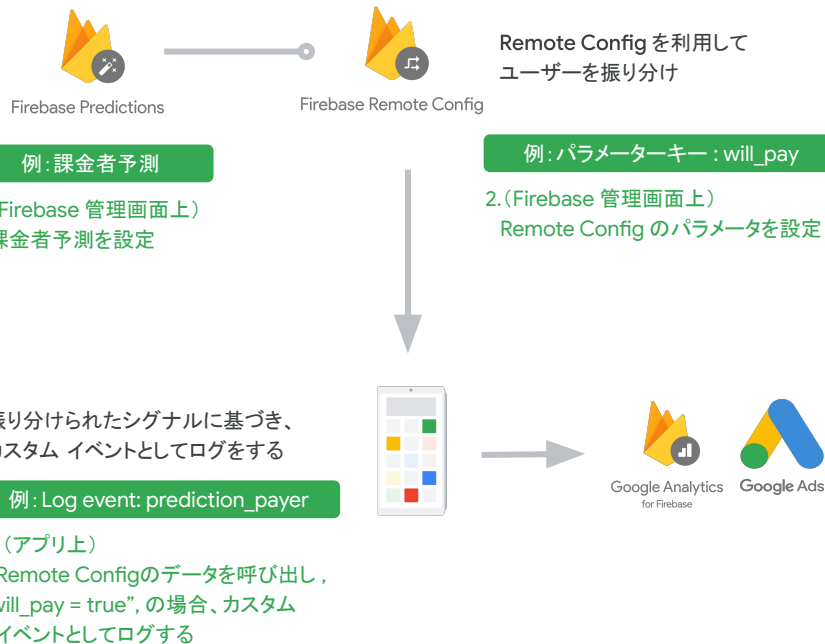
### ③ Firebase でアクションをとる

## ユーザーの行動予測に対して広告でアプローチしたい

活用機能例⑥

### Firestore Prediction と Google 広告を連携する

Firestore Predictionで作成した特定の行動をとりそうなユーザーリストを、Google 広告に連携することで、特定のユーザーリストに対して効率的にアプローチできるようになります。



# Firestore の実装とサポート

アプリのプラットフォームに合わせたFirestoreの実装方法やPrediction機能の設定方法をご紹介します。

# Firestore SDK の実装

Firestore 向け Google アナリティクス SDK は  
軽くて実装も簡単

開発プラットフォームごとの実装方法ページ



[Android](#)



[ウェブアプリ](#)

iOS

[iOS](#)

C++

[C++](#)



[Flutter](#)



[Unity](#)



SDK のサイズ

200kb\*

Android

1MB\*

iOS



実装にかかる時間の目安

1 時間\*\*

Analytics SDK を  
利用していた場合

1 週間\*\*

実装して  
いなかった場合

\*Firestore 向け Google アナリティクスのコア SDK のサイズです。追加モジュールによって変わる可能性がございます。

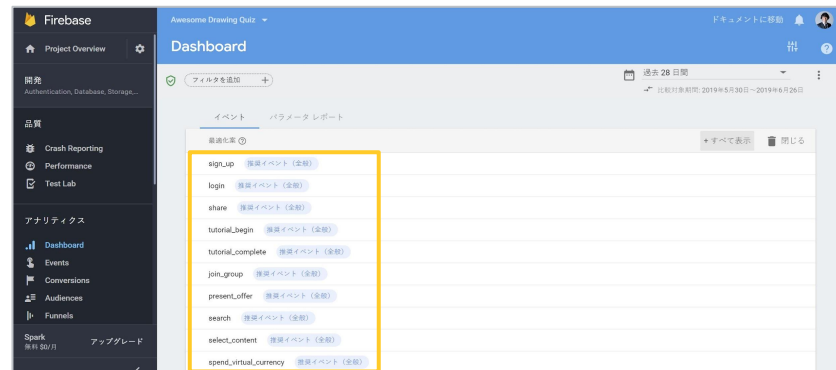
\*\*平均的な実装までの推定実装時間の目安です。

# 推奨イベントの設定方法



1

Firebase の [アナリティクス] 内にある [Dashboard] をクリックすると推奨イベントが表示されます。  
[+すべてを表示] をクリックしましょう。



2

このアプリに提案されている推奨イベントを一覧で確認することが可能です。この中から今回は [share] イベントを例に設定方法を説明します。

# 推奨イベントの設定方法



3

推奨イベント一覧から、推奨イベント名をクリックすると、上のよう画面に遷移します。

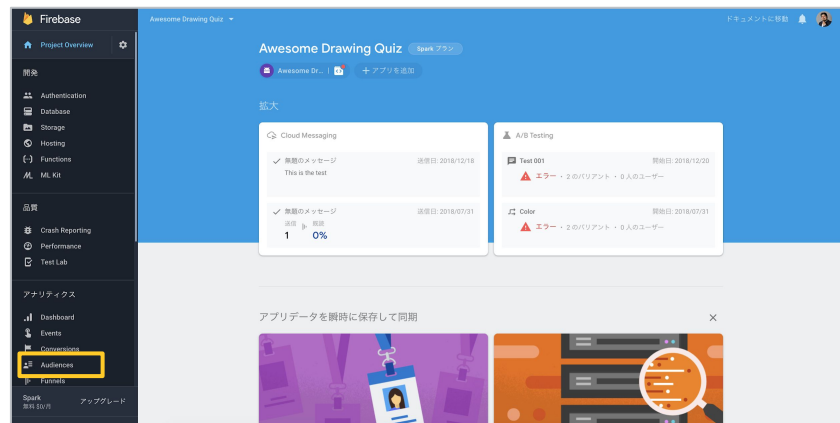
[share] というイベントを設定するのに必要なコードを Java で実装する場合は、こちらをそのままコピーしてエンジニアに渡しましょう。



4

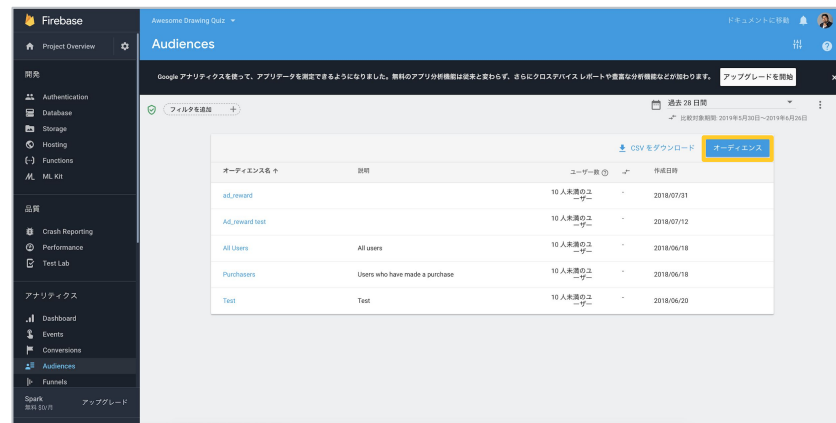
アプリの開発が他の開発言語で行われている場合、対応する開発言語をクリックしてください。  
こちらの例では、iOS アプリ開発で用いられる Swift を選択しています。このコードをエンジニアに渡して実装してもらいます。

# オーディエンスビルダーの設定方法



1

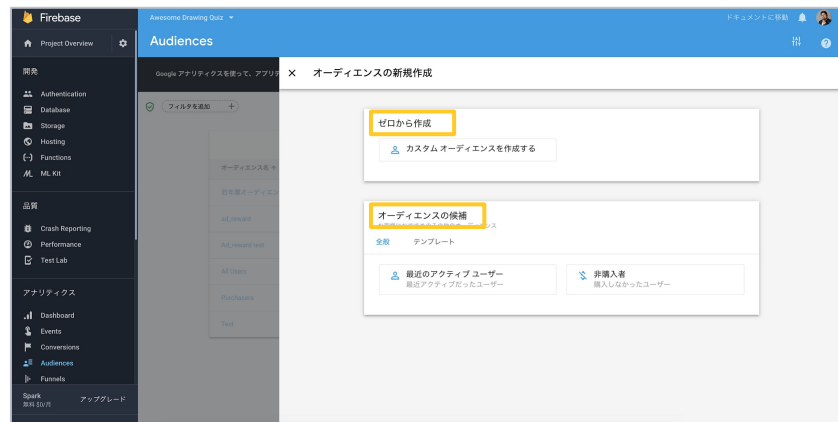
Firebase のトップページから、[アナリティクス] 内の [Audiences] をクリックしてください。



2

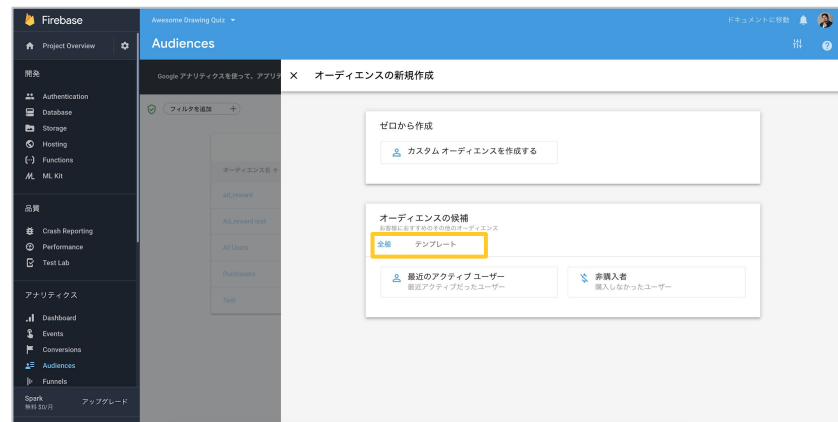
オーディエンス リストの一覧が表示されます。リストを作成するには、[オーディエンス] というボタンをクリックしてください。

# オーディエンスビルダーの設定方法



3

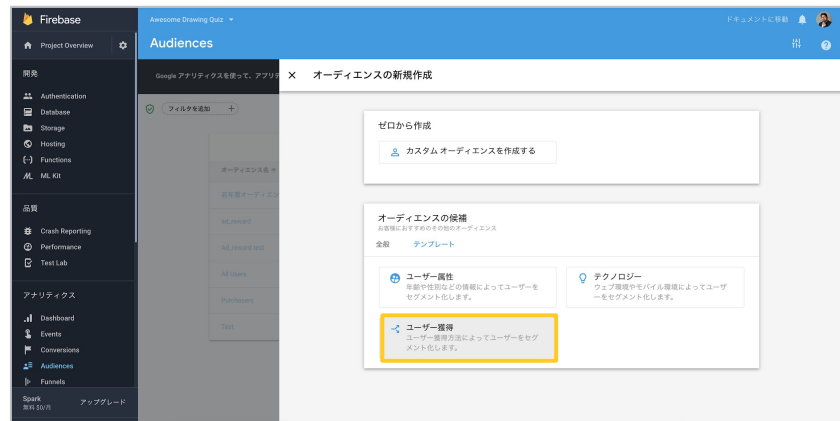
カスタムで作成する [ゼロから作成] と、テンプレートである [オーディエンスの候補] の 2 つの方法が利用できます。基本的な操作は一緒なので、テンプレートを利用した場合で解説します。



4

[オーディエンスの候補] 内には、[全般] と [テンプレート] の 2 つのカテゴリがあります。[全般] はあらゆるアプリに対応し、[テンプレート] は特定のアプリカテゴリに対応したものを Firebase が提案するものです。

# オーディエンスビルダーの設定方法

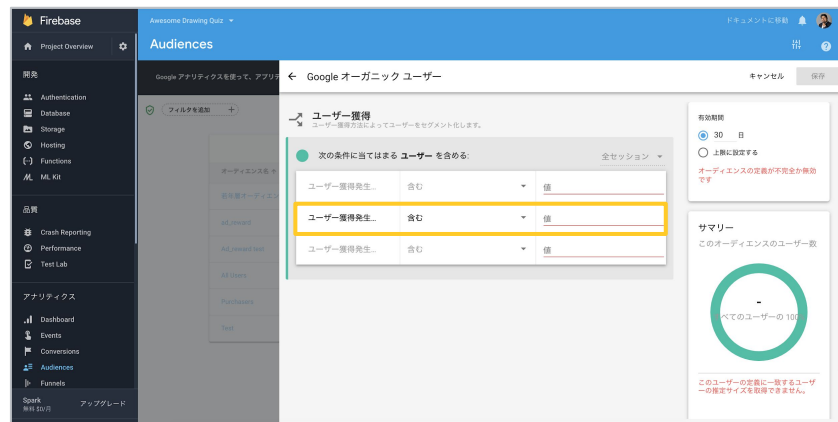


5

ステップ 6 以降は [テンプレート] から [ユーザー獲得] を選んだ場合における、テンプレートとカスタムの各作成方法を解説します。

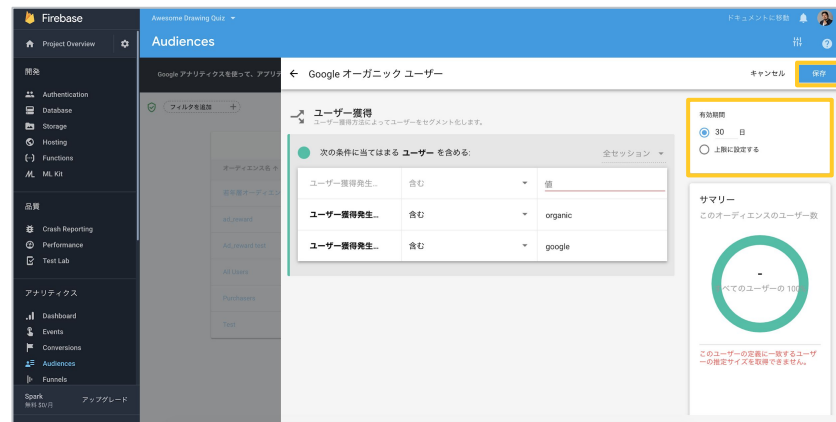


# オーディエンスビルダーの設定方法(テンプレート)



## 6 テンプレート作成方法

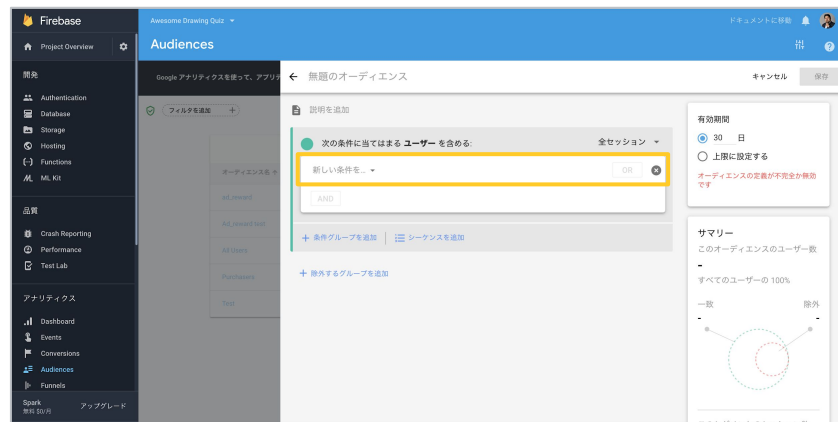
すでにテンプレートでは条件が設定されています。  
今回のケースだと、[ユーザー獲得発生チャネル] がすでに設定されているので、Google からの流入のみのリストを作成する場合には、値に「Google」と入力します。



## 7 テンプレート作成方法

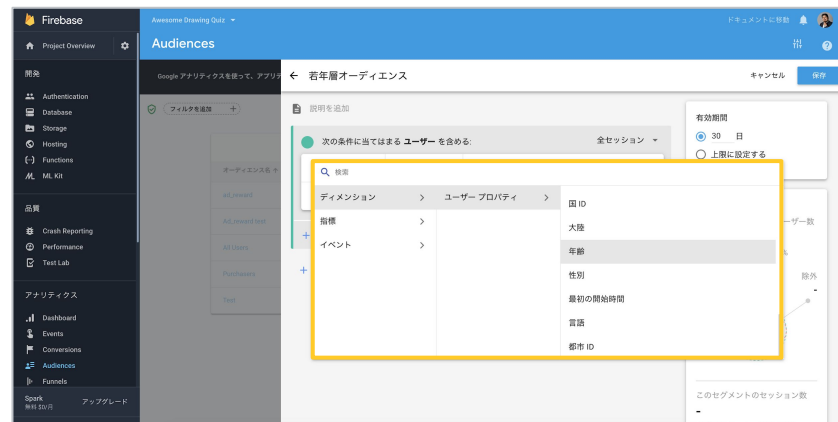
右上の有効期限を必要に応じて設定します。リストにいるユーザーの新鮮さが重要なケースでは、デフォルトの 30 日より短くするケースもあります。一方、分析に用いるようなケースの場合、[上限に設定する]を選択してください。最後に [保存] をクリックしたら作成完了です。

# オーディエンスビルダーの設定方法(カスタム)



## 6 カスタム作成方法

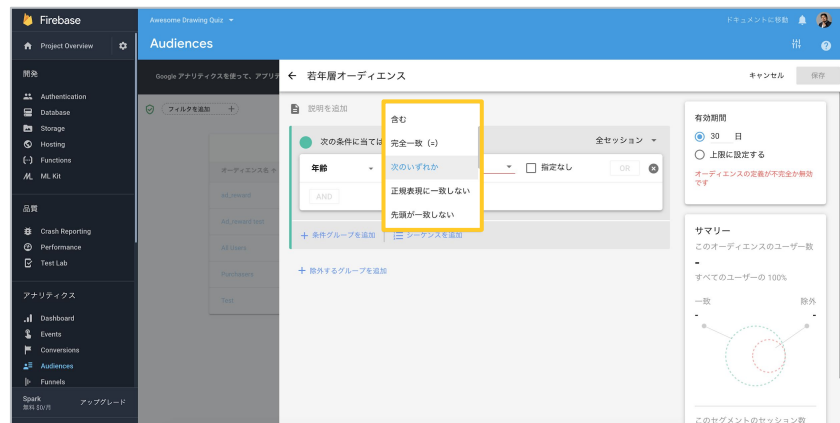
カスタムで作成した場合は、自分でオーディエンス名を設定し、前のステップですでに選択済みであった条件を、[新しい条件] というプルダウンから選択します。  
ここでは若年層のユーザーを対象としたオーディエンス リスト作成を例にとって解説します。



## 7 カスタム作成方法

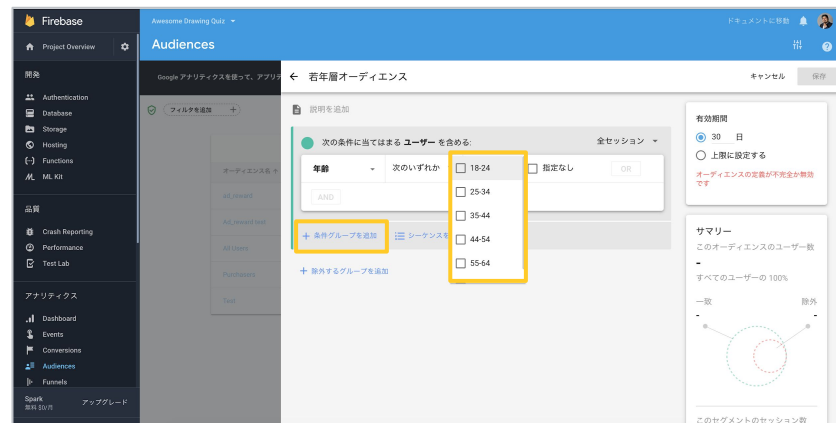
プルダウンで[年齢] の項目を探して、クリックします。  
自分で設定したカスタム イベントなど、イベントを利用したい場合は、[イベント] から適切なイベントを選択してください。

# オーディエンスビルダーの設定方法(カスタム)



## 8 カスタム作成方法

項目を設定したら、条件を決定します。プルダウンで選択できる条件から適切なルールを選択します。



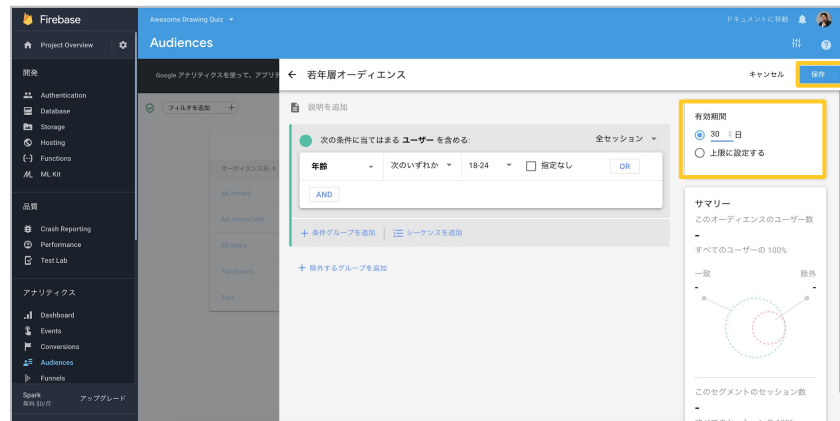
## 9 カスタム作成方法

このケースでは[次のいずれか]を選択し、[18-24]を値として設定しました。

18~24 歳のユーザーであると判定されたユーザーはこのリストに蓄積されていきます。

[条件グループを追加]をクリックして、さらに複雑なルールも設定可能です。

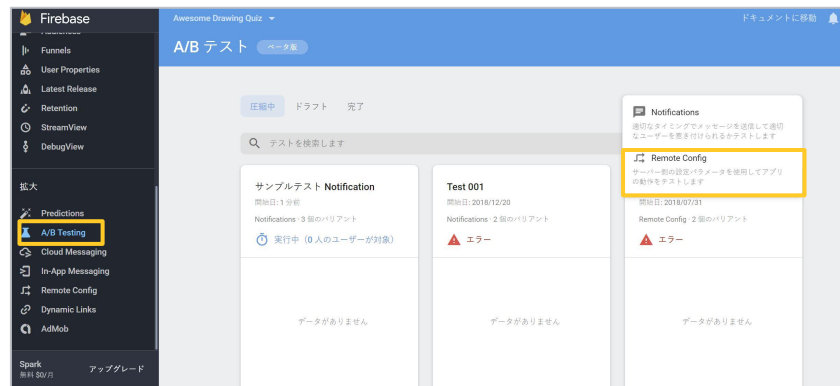
# オーディエンスビルダーの設定方法(カスタム)



## 10 カスタム作成方法

最後は必要に応じて[有効期限]を変更し、[保存] ボタンをクリックしたら設定完了です。

# Firebase RemoteConfig での A/B テスト設定方法

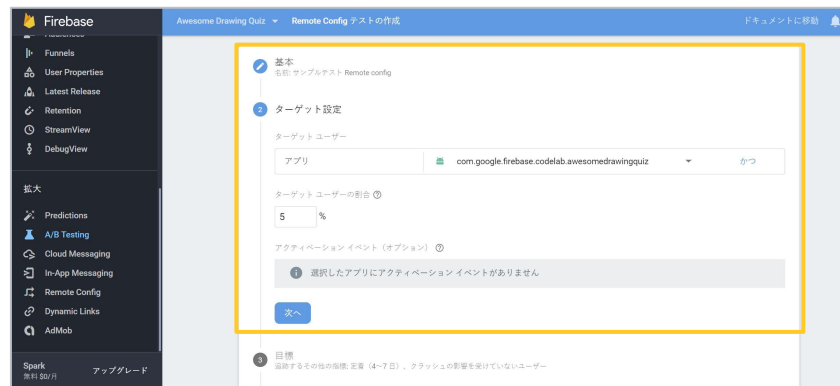


- 1 [拡大] から A/B Testing を選択します。
- 2 [テストを作成] をクリックします。
- 3 プルダウンから [Remote Config] を選択します。



- 4 テスト内容ごとに区別できるようにテスト名を入力します。
- 5 必要に応じて、どのようなテストなのかを説明する説明文を入力します。

# Firebase RemoteConfig での A/B テスト設定方法



6 テストを実施するユーザーの対象 OS を選択します。

7 テストユーザーに他の条件を追加する場合は [かつ] をクリックして設定します。

8 ターゲット ユーザーの割合を設定します。

9 [次へ] をクリックします。

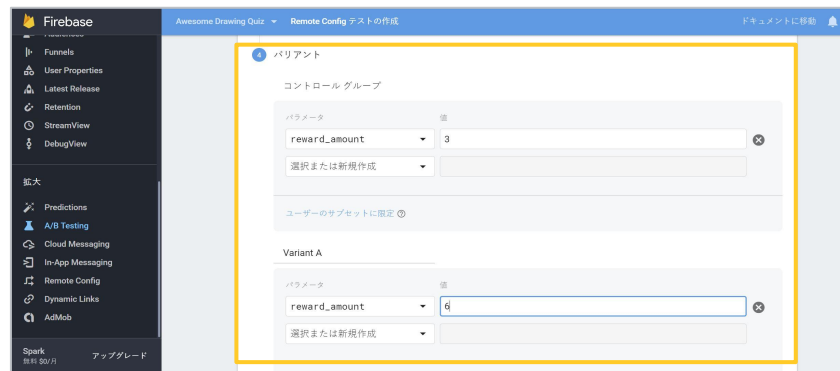


10 目標を選択します。  
(テスト実施後変化するであろうと考えられる指標を選択します。  
例: Remote Config で UI を変更し、1 日のユーザー エンゲージメントが上昇するか知りたい場合、目標に「1 日のユーザー エンゲージメント」を選択します。)

11 必要に応じて他の指標も追加します。

12 [次へ] をクリックします。

# Firebase RemoteConfig での A/B テスト設定方法

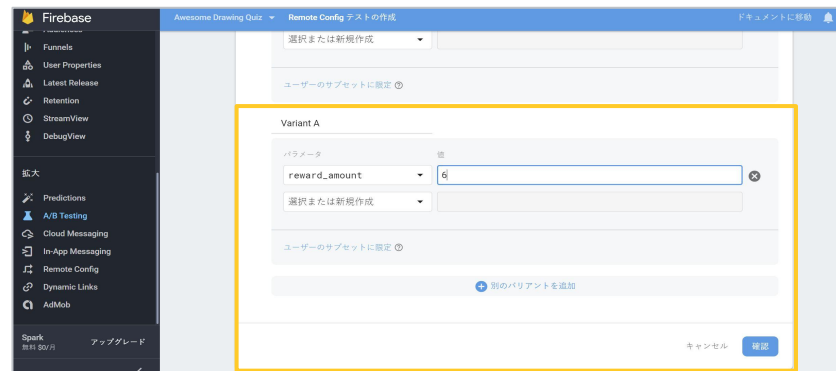


13

次にバリエーション(変数、テストグループに対して適用する通常とは違うUI)を設定します。

14

まずはコントロールグループ(変更を加えないユーザーグループ)の欄に、テストしたいパラメーターを選択し、値を設定します。



15

次に変更を加えたいユーザーグループの、パラメーターとその値を設定します。  
(ここではゲーム内リワードの数を検証しています)

16

必要に応じてバリエーションを追加することも可能です。

17

最後に [確認] をクリックします。

# Firebase RemoteConfig での A/B テスト設定方法



18

作成した A/B テストは開始ボタンを押すことで始まります。設定内容に問題がなければ [テストを開始] ボタンを押してください。

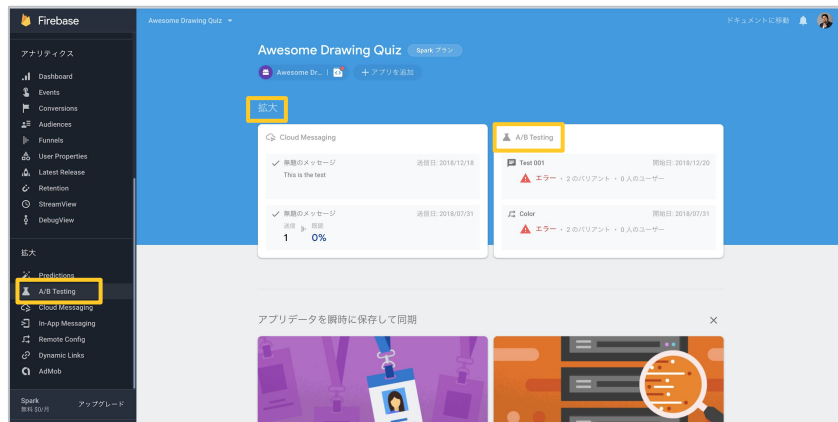


19

開始ボタンを押すと、テストの結果が参照できるようになります。(ここでは開始直後なのでデータがありません) 結果が蓄積されるまで待ちましょう。

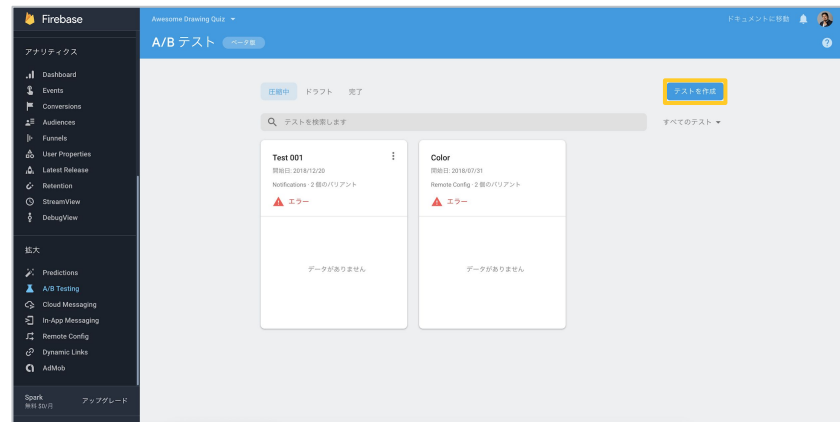


# Firebase A/B Test Notification 設定方法



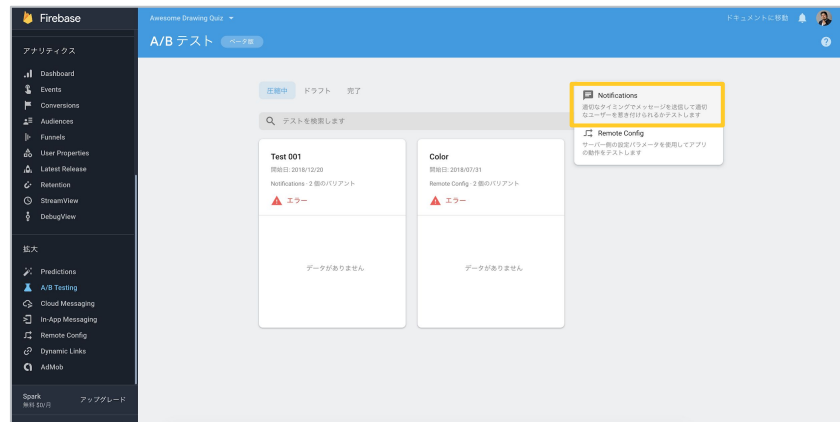
1 Firebase にログインします。

2 [拡大] から [A/B Testing] をクリックします。



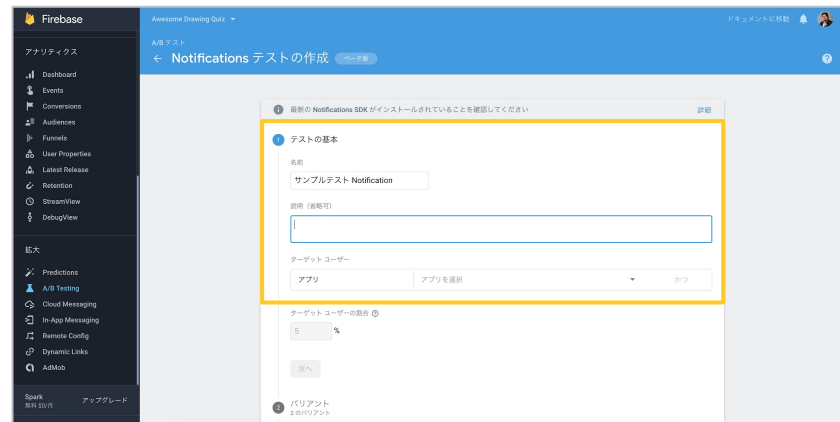
3 [テストを作成] ボタンをクリックします。

# Firebase A/B Test Notification 設定方法



4

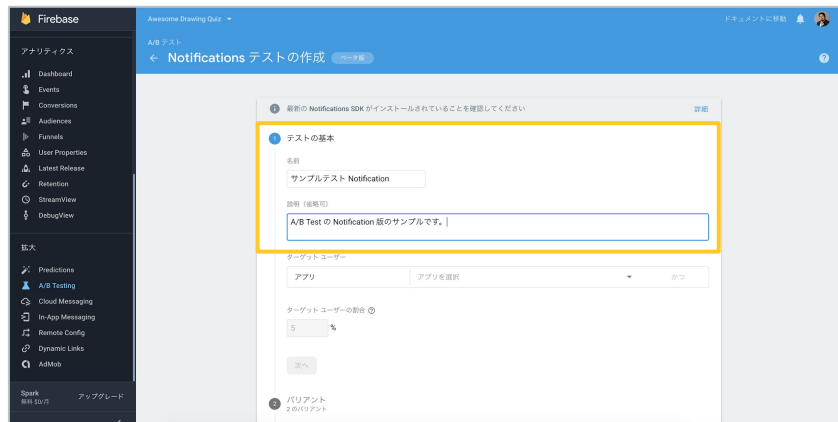
[Notification] をクリックします。



5

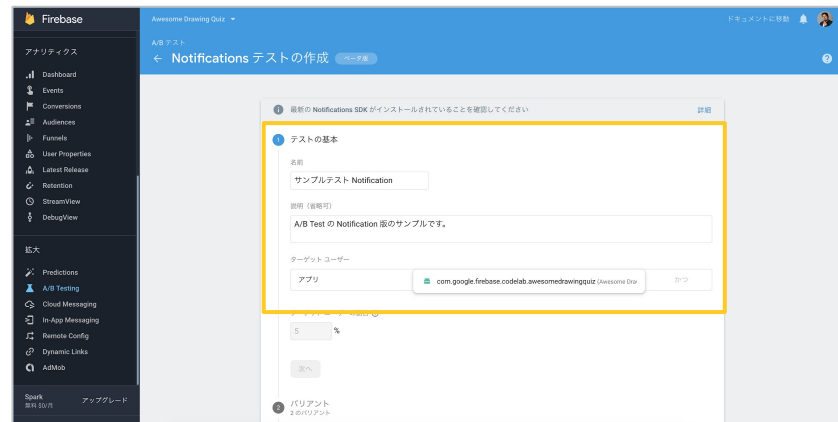
他のテストと区別できるようにテスト名を入力します。

# Firestore A/B Test Notification 設定方法



6

必要に応じて、どのようなテストなのかを説明する説明文を入力します。



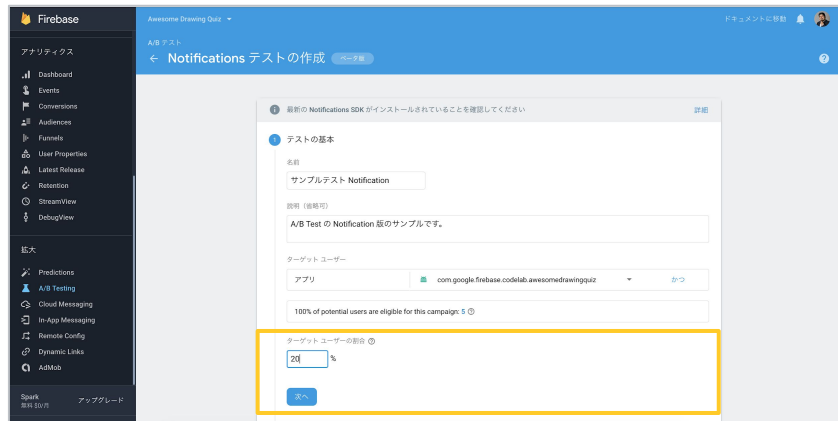
7

テストを実施するユーザーの対象 OS を選択します。

8

テストユーザーに他の条件を追加する場合は [かつ] をクリックして、設定します。

# Firebase A/B Test Notification 設定方法



9 ターゲット ユーザーの割合を設定します。

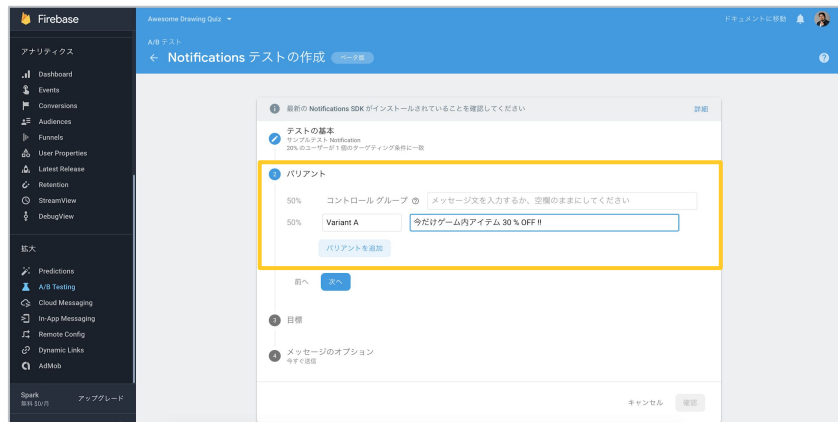
10 [次へ] をクリックします。



11 コントロール グループ(テストしないグループ)に送る通知メッセージを入力します。

12 空欄の場合は、通知の有無でテストを実施することになります。

# Firebase A/B Test Notification 設定方法



**13** テストを実施したいグループに送る通知メッセージを入力します。(空欄にはできません)

**14** 必要に応じてテストする通知メッセージのパターンを追加する場合は、[バリエーションを追加] をクリックします。



**15** 追加したバリエーション用の通知メッセージを入力します。

**16** [次へ] をクリックします。

# Firebase A/B Test Notification 設定方法



**17** 通知メッセージのテストの結果から検証したいユーザー行動を選択します。

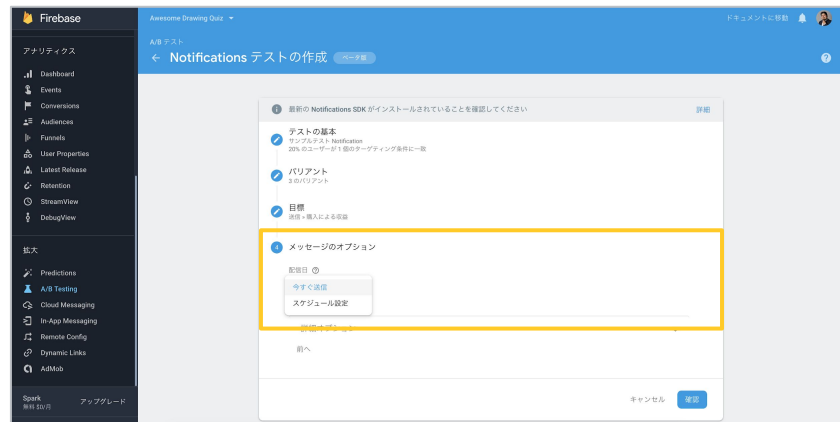
例:ここではアプリ内アイテムに関する通知メッセージを送るので、購入に関する指標を選択します。



**18** 必要に応じて目標を追加します。

**19** 目標を設定したら、[次へ]をクリックします。

# Firebase A/B Test Notification 設定方法

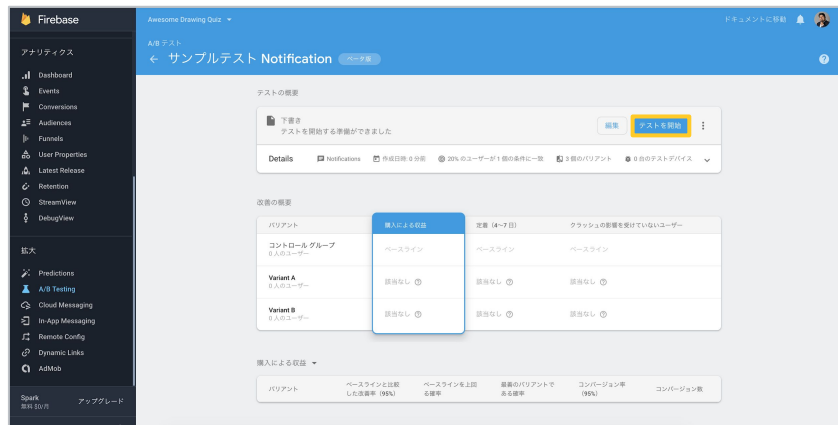


- 20 設定した通知メッセージのテストを今すぐ送信するか、スケジュールを設定して特定の日時に送信するかを設定します。

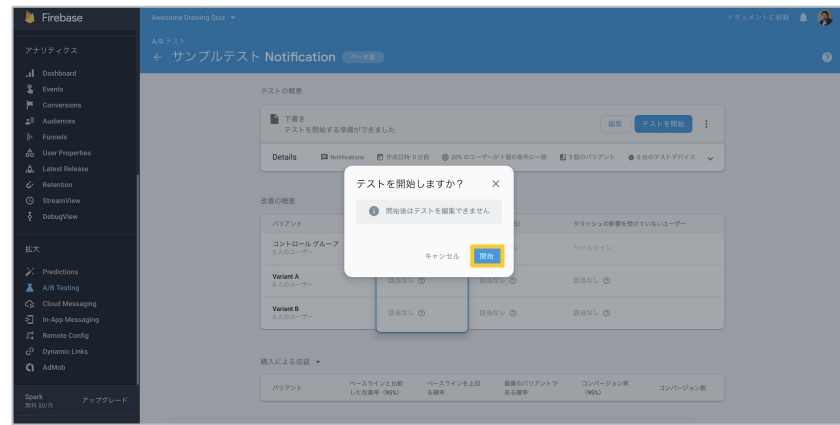


- 21 スケジュールを設定する場合は、日付、時刻と、そのタイムゾーンを設定します。
- 22 [確認] をクリックします。

# Firebase A/B Test Notification 設定方法



23 [テストを開始] ボタンをクリックします。



24 開始ボタンをクリック後はメッセージや送信スケジュールの編集ができなくなるのでご注意ください。



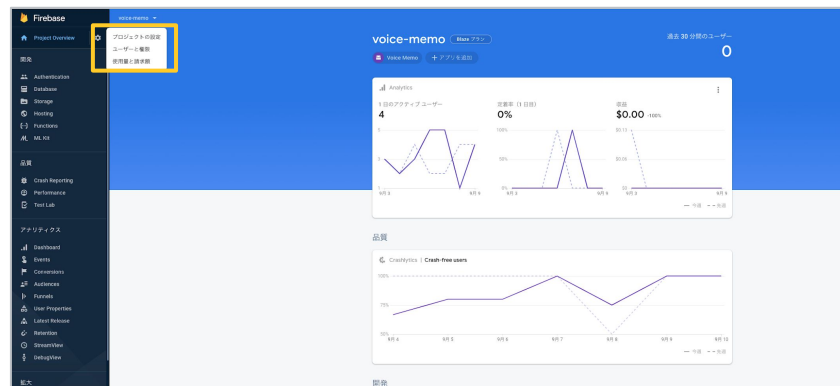
# Firebase A/B Test Notification 設定方法



25

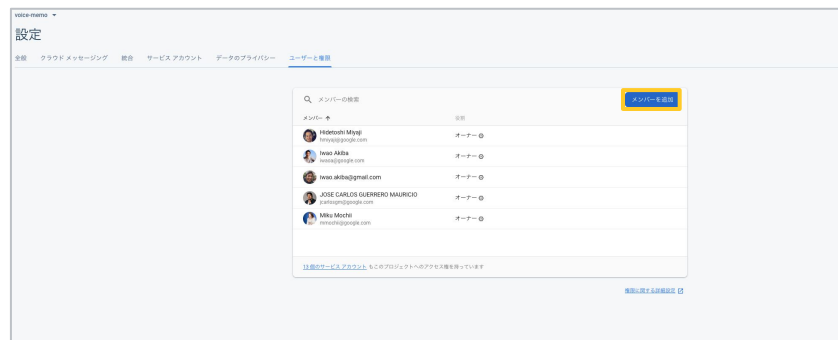
開始ボタンを押すと、テストの結果が参照できるようになります。(ここでは開始直後なのでデータがありません)結果が蓄積されるまで待ちましょう。

# Firebase と Google 広告の連携方法

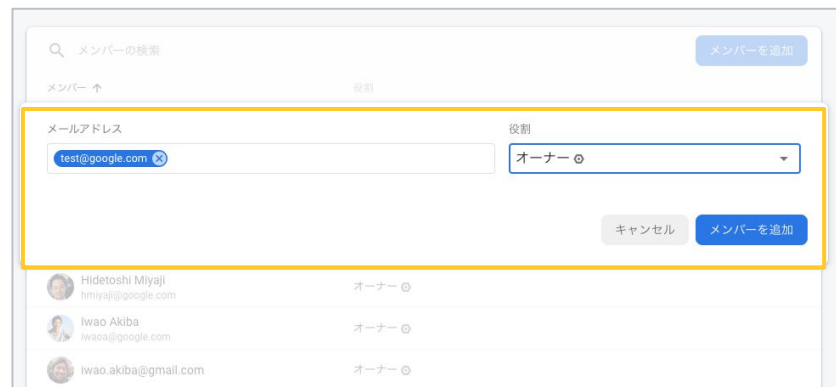


- 1 Firebase と Google 広告を連携するためには、Google 広告の管理者のメールアドレスと、Firebase のプロジェクト オーナー権限を持つ同一のメールアドレスが必要となります。
- 2 ここでは、Google 広告連携用にオーナー権限を持つユーザーを Firebase に招待する場合の連携方法について解説します。
- 3 Firebase のトップ画面から [歯車] アイコンをクリックします。
- 4 [ユーザーと権限] を選択します。

# Firebase と Google 広告の連携方法



5 [メンバーを追加] をクリックします。

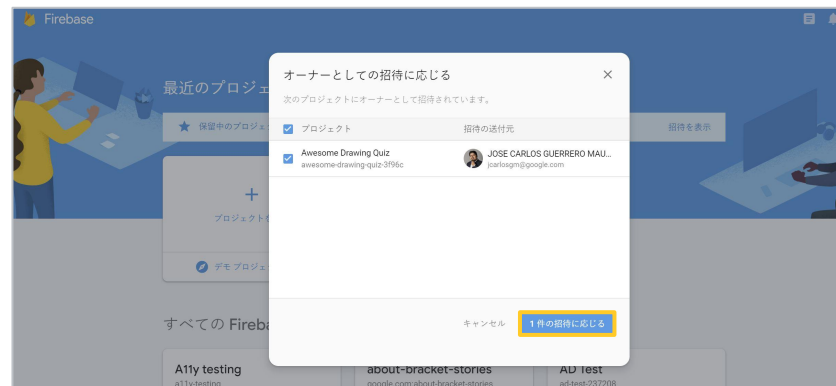


6 メールアドレスと[役割] のプルダウンから [オーナー] を選択し、[メンバーを追加] をクリックします。

# Firebase と Google 広告の連携方法



- 7 追加したメールアドレスの受信箱に、上のようなメールが届くので、[保留中の招待を表示]をクリックします。



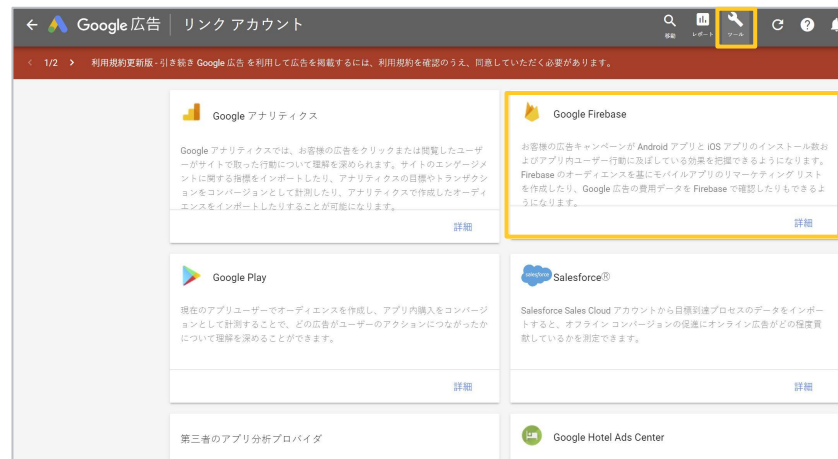
- 8 メールのリンクをクリックすると、Firebase の管理画面に遷移します。[招待に応じる]をクリックして完了です。

# Firebase と Google 広告の連携方法



9

招待を受諾すると、新しいメールアドレスが 5 で確認した一覧に追加されます。ここから先は、Google 広告での作業になります。



10

Google 広告にログインしたら、右上の [ツール] から [リンクアカウント] を選択してください。Firebase の項目内の [詳細] をクリックします。

# Firebase と Google 広告の連携方法

Google 広告 | リンク アカウント

2/2 > どの広告も掲載されていません。キャンペーンおよび広告グループは停止中であるか削除されています。有効になると広告が表示されるようになります。

プロジェクト ↓	ステータス	アクション	アカウント
tamzidhussainkhangoo	リンクされていません	リンク	—
New Testing	リンクされていません	リンク	—
My Project 38659	リンクされていません	リンク	—
kk-devenv	リンクされていません	リンク	—
CKMysqj	リンクされていません	リンク	—
AWS Link - AWS Link - Some des	リンクされていません	リンク	—
API Project	リンクされていません	リンク	—
versionable	リンクされていません	リンク	—
emojisavengerhunt-leaderboard	リンクされていません	リンク	—
Awesome Drawing Quiz	リンクされていません	リンク	—
Foo Project 20180511	リンクされていません	リンク	—
KittyZilla Test Project	リンクされていません	リンク	—

11 ログインしているメールアドレスで連携できる Firebase 一覧が表示されますので、連携したい Firebase プロジェクトの列のリンクをクリックします。



12 リンクの確認が表示されるので、リンクをクリックします。Firebase のオーディエンスリストを使用するためには [Google アナリティクスの Firebase ユーザーリスト] を次のアカウントと共有にもチェックを入れます。

# Firebase と Google 広告の連携方法



13

Firebase のイベントをコンバージョンとして、Google 広告で利用できるようにするためにはコンバージョンをインポートする必要があります。

管理画面右上の [ツール] 内の [コンバージョン] をクリックしてください。

遷移したページで [青いプラス] ボタンをクリックするか、左の画像の [+コンバージョン] をクリックしてください。



14

[アプリ] をクリックします。

# Firebase と Google 広告の連携方法



15 [Firebase] を選択し、[続行] をクリックします。



16 すべてのコンバージョンを選択し、[インポートして続行] をクリックします。



# Firebase と Google 広告の連携方法



**17** 左の画面に遷移したら、[完了] ボタンをクリックして作業は終了です。



**18** コンバージョン一覧に、Firebase のイベントがインポートされていることが確認できます。

Google